

Injury Alert (傷害速報) 類似事例

医薬品（アレンドロン酸）の誤飲（No.67 医薬品の誤飲による中毒の類似事例1）

事例	年齢：3歳0か月 性別：男児 体重：13.9kg	
傷害の種類	薬物誤飲	
原因対象物	アレンドロン酸（骨粗鬆症治療薬。週1回、1回の投与は1錠）	
臨床診断名	薬物誤飲	
医療費	8,460円	
発生状況	発生場所	自宅居間
	周囲の人・状況	祖父母、母親
	発生年月日・時刻	2017年2月10日 午後4時30分
	発生時の詳しい様子 と経緯	テレビの裏の子どもの目が届かないところ（高さ＝130～140cm）に、本薬剤をPTP（Press Through Pack）包装のまま保管してあった。本児が食卓の椅子（座面の高さ＝40～50cm）を自分で運び、その上にのぼり、薬剤を取り出した模様。家人が気付いたときはPTP包装が3錠分破れており、周囲に薬がなく、子どもの口内にもすでになかった。
治療経過と予後	午後4時56分に医療機関に到着。胃洗浄は当該薬物が食道穿孔の危険性を高めることが報告されているために実施しなかった。吸収阻害及び消化管粘膜保護のために、酸化マグネシウム及び牛乳を摂取させた。その後家族の希望もあり、本児に特に症状を認めなかったこともあり、帰宅した。誤飲後5日目と半年後に外来で骨代謝マーカーを測定する予定である。 本剤は週1回、1回に1錠の内服で良い薬剤だが、昨今投与回数が月～年単位になっている薬剤もあるため、より一層誤飲を防ぐ手段を講じる必要がある。 なお誤飲後5日目に測定した骨代謝マーカーは以下の通りであった。 骨形成マーカー：骨型アルカリフォスファターゼ＝50.7U/L 骨吸収マーカー：血清NTX＝26.3nmolBCE/L	

Injury Alert (傷害速報)類似事例

医薬品（ビタミン剤）の誤飲（No. 67 医薬品の誤飲による中毒の類似事例2）

事 例	年齢：1歳7か月	性別：女児	体重：8kg	身長：76.5cm
傷害の種類	薬物誤飲			
原因対象物	<p>ビタミン剤（27錠入り、写真1）</p> <p>製品容器 全体のサイズ：6cm×3cm、蓋は直方体に近い形状でサイズは縦2cm×横3cm×高さ2cm、容器はチャイルドレジスタンスではなかった、錠剤形状：白色円形、直径10mm</p> <p>成分〈3錠あたりの分量〉：ベンフォチアミン(活性型ビタミンB1)〈138.3mg〉、ヘプロニカート〈100mg〉、シアノコバラミン〈60μg〉、トコフェロールコハク酸エステルカルシウム〈51.79mg〉など</p>			
臨床診断名	ビタミン剤誤飲			
医療費	4,870円			
発生状況	発生場所	自宅のリビング		
	周囲の人・状況	生来健康で、成長発達に異常の指摘がない児。両親・児の三人暮らし。父は仕事で不在であった。リビングで児は独りでテレビを見ていた。約2m離れたオープンキッチンで母が家事を行っていた。		
	発生年月日・時刻	2017年7月4日 午後1時30分		
	発生時の詳しい様子と経緯	<p>自宅リビング内の高さ100cmのオープンラックに置いた蓋のない籠にビタミン剤の入った容器を収納していた。容器は開封済みで、ビタミン剤の残数は約17錠であった。午後1時15分頃、物音に気づいた母が振り返って状況を確認した際、オープンラックに置いていた籠が床に落下していた。児は籠の中から容器を取り出し手に取っていた。その時点では容器のキャップは開いていなかった。児をリビング内で遊ばせたまま、母は隣室で掃除を続けていた。</p> <p>午後1時30分、母がふとリビングを見ると、容器内に入っていたはずの錠剤2錠が床に落ちており、児がキャップを握り口腔内に錠剤を含んでいるのを発見した。容器は空だった。すぐに母が児の口腔内から13錠を掻き出し、床に落ちた2錠を回収した。午後3時すぎに医療機関を受診した。</p>		
治療経過と予後	来院時にぐったりした様子はなく、バイタルサインは異常なかった。上記病歴から、ビタミン剤を最大で2錠誤飲した可能性があるかと推察された。有意な症状を認めず、診察でも異常所見を認めなかった。傷害予防教育を実施し、自宅経過観察の方針で帰宅となった。以降の再診はない。			



写真1. 対象となる製品容器